

# むつごろう通信

20号

2011年

11月15日発行

## 新センター長の滝川です。どうぞよろしく御願います。

はじめまして、前任の嶋田純教授に代わって新しく第3代センター長を拝命しました滝川清と申します。専門は海岸環境工学・防災工学で、工学部の土木工学の出身です。「環境と防災の調和した安心・安全で豊かな地域づくり」を研究の大目標に掲げています。このためには、工学、理学、社会学、人文学、医学などの広範な分野にわたる基礎から応用に至る研究を推進し、さらには国や県等の行政機関、民間企業や地域住民との連携による展開が重要と思い、取り組んでおります。



沿岸域センターでは沿岸域環境、特に有明海・八代海を対象とした研究を中心に行ってきておりますが、海域環境の劣化が著しい一方で、この両海域は台風の常襲地帯でもあり強風、豪雨による洪水、土砂災害、また高潮・高波等の海象災害などに悩まされ、自然災害に対する防災・安全対策は不可欠な地域です。その反面、台風9918号による高潮災害に見られるような高潮対策のための海岸堤防等の防災構造物の建設が自然環境を阻害している面もあります。すなわち、この海域では、「環境」と「防災」との相反する課題に直面している事実があり、環境あるいは防災のどちらかを選択するというような単純な課題ではなく、如何にして、この相反する、環境と防災に対処していくかという新たな課題があることを見据える必要があります。巨大化、頻発化の兆候が著しい自然災害に対し、“災害に強く安全でかつ環境と調和した個性ある地域創り”に関する早急な学術的、技術的対応が強く要請されていると痛感しております。

これまで、有明海的环境再生プロジェクトとして、文部科学省科学技術振興調整費研究「有明海生物生息環境の俯瞰型再生と実証試験（平成17～21年度）」を実施して、環境特性の把握、環境変動評価手法（有明海モデルなど）の開発、再生技術の現地実証など多大の成果を挙げております。また、平成23年度からは、これまで十分な調査・研究が行われていない「八代海」を対象として、文部科学省特別経費による「生物多様性のある八代海沿岸海域環境の俯瞰型再生研究プロジェクト」が5カ年の予定で、沿岸域センター教員を中心に開始されています。八代海が抱える課題を、「自然・生態環境」「安全・防災」「開発・利用」の調和した新たな観点から取り組み、実施できる沿岸海域環境の再生策を研究・検討するものです。このプロジェクトの成果として、①海域環境の真の再生による生物多様性・水産資源の回復及び増加による地域活性化、②環境と防災の調和した安全・安心な持続性のある地域社会の形成、③底質改善や水質改善技術の開発による地域環境産業の振興など、大いに期待されています。教職員一同この大きなプロジェクトを中心に鋭意、研究・教育に日々励んでおります。

しかしながら、有明海・八代海の真の再生は大学の研究だけでは限界があります。国や県・市町村等の行政機関、地域NPOや住民の方々の連携・協力が不可欠です。皆さまのご協力・ご支援をもって目的を達成せねばなりません。どうぞよろしくお願い申し上げます。

歴代センター長が築いてきた10年間の実績を基に、更に発展させ、地域に貢献できるセンターとして機能させていく所存です。今後とも一層のご支援を御願いしつつ新任のご挨拶とさせていただきます。